

申13号「2021年度夏季手当等に関する申し入れ」への

会社回答に対し抗議する怒りの見解

2021年6月10日、夏季手当等に関する申し入れに会社回答が示された。

まず冒頭「会社から示された回答には理解、納得できない。」ことを明らかにする。

回答書では「令和2年度期末決算(単体)での大幅な赤字の計上」「有利子負債の増加」「4月と5月の収入は当初計画を下回っており、黒字化への道のりは想定以上に陰しさを増した状況」とあり、基準内賃金の2.0ヶ月分としている。

私たちは、赤字・コロナ禍における「変革2027 変革のスピードアップ」による急速な変化に対し『緊急提言』の意義に立ち、黒字経営に向けて日々の業務、コスト削減、消毒作業を積み上げてきた。

会社が発表した2021年度業績見越しは250億円の黒字としている。またゴールデンウィーク輸送の前年比は、新幹線・特急は626%の大幅増、近距離利用も288%増加、高尾駅のご利用状況は前年比313%増加しており、業績ならびに利用者も昨年より増加している。

会社は交渉の場で「決意と実行の1年」とし「足元の状況」「収益力の向上および構造改革」また「持続的な成長を行なって社員と家族の幸せの実現」と繰り返し述べてきた。

私たちが交渉で訴えてきた生活実感や労働実感について、会社は「承知している」と言葉にするものの、生活実感に踏み込んだ議論に重きをおいて触れられておらず認識が合わない。減収による生活確保の困難な状況に踏まえた生活実感による要求根拠と交渉で訴えてきた組合員と家族へのコロナ禍における奮闘に報いるべきである。

職場からの闘いでは、組合員ミーティング、座談会、総対話なども創造的に展開し、多くの組合員が参加した。組合員からは職場で発生している問題点も含め多くの意見が寄せられた。

「前年比よりも前々年比(2019年度)を強調しているのはおかしい」「業務の変化、環境の変化の苦労は誰が受け止めているのか」「業績は前年比より大きく上回っている」「貯蓄また学資積み立てなど切り崩している」「子供に習い事もさせられない」「税金の支払いも大変」「我慢にも限界がある」など、生活給的要素の高い手当の低額回答は、生活設計が崩れ社会的なつながりをも削ることだと怒りや不安もだされた。働く社員のモチベーションのみならず、本人・家族の生活環境を低下に向かわせる事態であるのだ。

JR 東労組八王子地本は、全組合員に強く訴える。

- ①私たちは「会社から示された回答には理解、納得できない」こと。
- ②JR 東労組申14号「組合員と家族の生活確保とモチベーションの維持・向上を求める2021年度夏季手当等に関する緊急再申し入れ」(4項目)を全組合員の総力で支え、職場からさらに議論を創り出すこと。
- ③今まで業績が良い時も賃金・手当が抑えられてきた経緯からして、このままでは「賃金・手当の引き下げ」については「労働条件の引き下げ」に向かってしまう危機的状況に声を上げること。

今こそ労働組合の必要性を理解し、組合未加入者に「今の状況で良いのか」など働きかけ、現実を変えるために活動する JR 東労組への結集を目指す。

私たちは、過去の反省と教訓を忘れず、職場に依拠し組合員に寄り添っていく。そして「職場からの挑戦」で組合員の負託に応えるべく闘っていく。

2021年6月10日
東日本旅客鉄道労働組合
八王子地方本部執行委員会